

衆議院安全保障委員会ニュース

平成 30. 11. 13 第 197 回国会第 2 号

11 月 13 日（火）、第 2 回の委員会が開かれました。

1 国の安全保障に関する件

- ・河野外務大臣、岩屋防衛大臣、あべ外務副大臣、國重総務大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

（質疑者及び主な質疑内容）

寺田学君（立憲）

- ・本年 2 月 8 日の衆議院予算委員会において、当時の小野寺防衛大臣は、イージス・アショアの配備地決定に際しては「地元的首長の理解と協力は必須」との認識を示したが、当該答弁を踏襲するか否かについて、岩屋防衛大臣に伺いたい。
- ・秋田市における同配備候補地は、都市計画法に基づく風致地区の認定地域であり、建築物等の新築に当たっては、秋田市風致地区内における建築等の規制に関する条例において、「あらかじめ市長に協議しなければならない」と定められていることについて、岩屋防衛大臣の認識を伺いたい。
- ・地元の理解と協力を得て同配備地が決定される前に、米国とイージス・アショアに係る契約を締結すべきではないと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

本多平直君（立憲）

- ・本年 11 月 12 日に米艦載機が那覇沖に墜落した事案に関し、事故原因の調査結果が出るまでは、同型機の飛行停止を米軍に求めるべきと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・本年 1 月 29 日の衆議院予算委員会において、当時の小野寺防衛大臣は、相次ぐ米軍機の事故に関し、米軍の整備状況について自衛隊の専門的、技術的知見を活かして確認、検証する旨の答弁をしているが、当該検証等が延期となっている理由及び本件を日米専門家会合において協議する可能性について、岩屋防衛大臣に伺いたい。
- ・職員用の公文書管理マニュアルに関し、防衛省が幹部研修において、記録が必要な打合わせを「通達等に基づく課長級以上の会議」に限定するよう指示していたとされるが、当該事実の有無及び誤解が生じる同マニュアルの改訂の必要性について、岩屋防衛大臣に伺いたい。

篠原豪君（立憲）

- ・米軍施設の返還後の跡地利用は、返還国有地の利用区分

に応じて国から地方自治体への土地処分の優遇措置があるものの多額の事業費がかかり、地方自治体にとって大きな財政負担となっているが、防衛省は財源に余裕のない地方自治体に対して財政負担を減らすためにどのように取り組んでいくのか、岩屋防衛大臣に伺いたい。

- ・平成 16 年に返還合意された横浜市内の 6 施設・区域に含まれない鶴見貯油施設及び瑞穂ふ頭／横浜ノース・ドックについては、米側とどのような交渉をしているのか、また、返還は求めているのか、河野外務大臣に伺いたい。
- ・イージス・アショアの整備に係る経費が上昇し、配備候補地からの反対もある現状では、イージス護衛艦を増やす方が費用面等で効率的ではないかと考えるが、イージス・アショアの導入を再検討する必要性について、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

前原誠司君（国民）

- ・我が国の外交・安全保障上の最大の課題について、岩屋防衛大臣及び河野外務大臣の見解を伺いたい。
- ・中国は偉大な中華民族の復興を成し遂げるために経済・軍事両面で世界のナンバーワン、「覇権」を目指しているとの認識に対して、河野外務大臣の見解を伺いたい。
- ・中国の沿岸警備を担う海警局が機構改革により中央軍事委員会の直轄組織である武装警察部隊に編入されたことについて、岩屋防衛大臣の受止めと今後の対応策について見解を伺いたい。

串田誠一君（維新）

- ・自衛隊の災害派遣が増加してきているが、自衛隊は災害派遣と防衛活動を両立していけるのか、今後の見通しを防衛省に伺いたい。
- ・自衛隊の災害派遣では、瓦礫の中に埋もれた人にとって自衛隊員の存在を分かりやすくするなどの観点から、迷彩服ではなく目立つ服を着用すべきと考えるが、そのような検討が行われているのか、防衛省に伺いたい。
- ・自衛隊の災害派遣において女性自衛官の活躍が求められ

る場面は多いため、今後女性自衛官の採用を増やすべきと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

和田義明君（自民）

- ・ロシアが行っている大規模軍事訓練や北方領土での軍備強化により、日本への脅威は増していると考え、ロシアの脅威及びその脅威から北海道を守る防衛体制について、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・補給品の在庫不足により自衛隊装備品の稼働率が低下していることから、新たな防衛大綱に部品、弾薬等の補給の必要性について明記すべきと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・自衛隊の輸送能力及び展開能力が不足していると考え、輸送艦及び輸送機の増強について、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

浜地雅一君（公明）

- ・防衛大綱を見直すに当たり、防衛関係費の制約や南西地域等への脅威がある中で、予算の適正化や人員の適正配置を図る上での政策の優先順位についてどのように考えるか、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・防衛大綱を見直すに当たっての太平洋側の防衛体制整備の在り方について、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・現在、ASEAN諸国においては中国による一帯一路と領土主義との結びつきが懸念されており、我が国が「自由で開かれたインド太平洋戦略」を推進する好機であると考え、安全保障のパートナーとしてASEAN諸国との関係を更に深化させるため、今後どのような働きかけをしていくのか、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

広田一君（無会）

- ・我が国を取り巻く安全保障環境に関し、昨年と比べてどういった点が格段に早いスピードで厳しさを増しているのか、岩屋防衛大臣及び河野外務大臣の認識を伺いたい。
- ・昨年、第195回国会の所信表明演説において、安倍内閣総理大臣は我が国を取り巻く安全保障環境は戦後最も厳しいと述べたが、この1年の間にその根拠である北朝鮮情勢が変化したのではないかと、岩屋防衛大臣の認識を伺いたい。
- ・本年11月8日の本委員会における所信において、岩屋防衛大臣は「専守防衛は当然の前提」と述べたが、限定的な集団的自衛権の行使を認めた平和安全法制の施行によって、専守防衛は破棄されてしまったのではないかと、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。

赤嶺政賢君（共産）

- ・本年11月12日に米艦載機が那覇沖に墜落した事案に関し、防衛省は、現時点で分かっている事故原因、米軍の訓練区域との関係を含む墜落場所、油漏れの有無を含む被害状況を示すとともに、事故原因が究明されるまでの間、同型機の飛行停止を求めるべきと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・米軍機によるトラブルが相次ぐ中、米軍による機体の点検や整備について、我が国が主体的に検証できる仕組みを検討すべきと考えるが、岩屋防衛大臣の見解を伺いたい。
- ・我が国と同じように駐留米軍を受け入れているドイツやイタリアでは、地位協定において、自国の法律や規則を適用して米軍の活動をコントロールする旨の規定があるが、なぜドイツやイタリアで認められていることが我が国ではできないのか、河野外務大臣に伺いたい。

照屋寛徳君（社民）

- ・日米地位協定の抜本的な見直し等を求めた全国知事会の「米軍基地負担に関する提言」（平成30年7月27日）について、河野外務大臣がどのように受け止めたか伺いたい。
- ・米軍普天間飛行場が発がん性も指摘されている残留性有害物質に高濃度に汚染されているとする報道（平成30年10月27日付沖縄タイムス）を承知しているか、また、同報道を受けて防衛省として米海兵隊に民間地域の地下水汚染対策を求める考えはあるのか、岩屋防衛大臣に伺いたい。
- ・辺野古の新基地建設に伴う埋立てに使用する岩ズリを台風被害により使用禁止となっている本部地区及び国頭地区以外から搬出する場合又は陸路により搬送する場合には沖縄県へ設計概要変更申請をする必要があることを承知しているか、岩屋防衛大臣に伺いたい。

長島昭久君（未来）

- ・北朝鮮が依然として核・ミサイル開発を継続しているとの報道がある中、中国・韓国・ロシアでは、北朝鮮に対して制裁を緩和する動きが見られるが、日米は国連安保理決議の徹底履行を柱とした圧力路線を維持することで一致しているとの日本政府の立場に変わりはないか、河野外務大臣に伺いたい。
- ・本年8月に韓国政府が、北朝鮮産石炭をロシア経由で不正輸入したとして貨物船4隻に対する入港禁止措置を発表したにもかかわらず、いまだにそれらの貨物船が日本への寄港を継続し、日本とロシアの間を頻りに往復していることなどから、我が国も韓国政府のように入港禁止措置をとることを検討すべきと考えるが、河野外務大臣の見解を伺いたい。
- ・北朝鮮による不正輸入に関して、我が国の「特定船舶の

入港の禁止に関する特別措置法」では、北朝鮮船籍以外の船が北朝鮮を迂回し、第三国を通じて密輸するケース

に対応できていないため、今後国内法を整備していくべきと考えるが、河野外務大臣の見解を伺いたい。

2 防衛省の職員の給与等に関する法律の一部を改正する法律案（内閣提出第10号）

- ・岩屋防衛大臣から提案理由の説明を聴取しました。